

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年2月13日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101060
法人名	社会福祉法人 陽明会
事業所名	グループホーム 下田温泉の郷
所在地	鹿児島県鹿児島市坂元町1087-1 (電話) 099 - 210 - 7431
自己評価作成日	令和2年1月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・自然に囲まれ、川のせせらぎを聞きながら落ち着いて過ごせる環境。また、施設内には小さな畑を設置しているため、季節に応じて、芋掘りや野菜の栽培などを行い、入居者様が身近で収穫する喜びを感じていただいている。
- ・各職員が理念を意識し、一人一人その人らしさを尊重してケアに当たっている。
- ・毎月認知症・身体拘束について勉強会を行っており、サービスの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は耐震構造を重視した2階建て2ユニットの構成で、同法人のデイサービスセンターが隣接している。
- ・町内会に加入し、地域の清掃などにも参加する一方、事業所の敬老会などの行事にも地域の人々や家族の参加があり、ともどもの交流の場となっている。
- ・定期的訪問診療や訪問看護師の健康管理、朝夕の状態報告など協力医療機関との連携を構築し、利用者や家族にとって安心できる環境である。
- ・管理者と職員は利用者ひとり一人が張り合いや喜びに繋がれるように、月1回の音楽リハビリや朗読会を取り入れたり、畑での作業、希望でベランダの掃除など、個々の力量を活かしながら支援している。家族の面会も多く、各ユニットに談話室があり、ゆったりしたソファで過ごせるよう工夫がしてある。
- ・代表者や管理者は働きやすい環境作りに配慮し、職員間のコミュニケーションも良く、自らの資質向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり、のんびり、その人らしく地域生活を楽しむ」を理念に、スタッフ間で意識し、サービスの質を高め、入居者が安心して生活出来るようにしているが、地域との関わりが出来ていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念で、玄関や事務所・ホール・パンフレットに掲示している。各自意識づけしてミーティング等で振り返り支援に活かしている。地域との関わり方について話し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は防災、防火訓練にしか地域と交流する機会が持てていない。運営推進会議もあるが、参加の時間をもてていない。	町内会に加入している。回覧板で情報を得、地域の清掃活動に積極的に参加している。法人でコミュニティカフェを開催している。ボランティアの受け入れなども行っている。法人の敬老会などの行事には地域の人参加があり、交流の場となっている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議などで、実際にあったケアなどを事例として上げ、それに対しての支援方法などを報告して地域のネットワークに役立ててもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ヒヤリハットの事例や、事故報告の事例など報告している。また、町内会から評価などして頂きサービスの向上につなげている。	会議は定期的開催している。事業所の状況やヒヤリハット・事故報告・外部評価の結果報告などを行い、委員からも多くの助言や提案がある。民生委員からの情報などもサービスの向上に活かしている。認知症についての相談に対応したり、情報提供の場ともなっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議の参加を現在促しておらず、協力関係を築けていない。年度末に最後運営推進会議を実施するため、そのさい連携関係を築くようにする。	市担当者には、必要に応じて電話や窓口に出向き事業所の実情や情報を報告し助言を貰っている。市主催の研修会に参加している。今後日程の調整をして運営推進会議への参加を依頼する計画である。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月ミーティングにて「身体拘束について」勉強会を行い、身体拘束を行なわないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会でマニュアルに沿って、事例検討など、毎月勉強会を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中の玄関の施錠はせず、職員間の連携で安全な暮らしを支援している。法人で虐待や事故防止についても勉強会を実施している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に一回下田苑にて勉強会で行われるため、合同で参加し、学ぶ機会を設けている。また、入居者とのケアの際にも、職員の言動や外傷などがないか確認を行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会やミーティングで勉強し、重要性を学び、確認した上でスキルアップにつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学時、契約時にはご家族に気になる点や不安、疑問を再確認し、十分に理解を得た上で契約の締結を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者やご家族が面会等、各ユニットの職員が入居者の近況報告を行い、その際入居者、ご家族の意見や要望を聞き取るように心掛けている。その内容は連絡ノート等に記録、周知している。	利用者からは入浴やお茶の時間など、日々の関わりの中で意見や要望を聞き、家族からは面会や家族会・電話・運営推進会議が意見を聞く良い機会となっている。毎月、近況や写真を取り込んだ便りも送付し、家族の意見や要望を運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回にミーティングを開催し、職員の意見を聞き運営に反映させている。	管理者は月1回の職員会議や情報共有シート等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映を図るよう心がけている。相談事は個別に聞き適切にアドバイスをしている。出された意見や提案などがケアの改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の働く姿や入居者様との関わり方、接遇、また仕事に向う意識の高さや、研修会の参加、また、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム内に認知症介護指導者研修を修了したスタッフを配置しいつでも指導を仰ぎながらより良いケアに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症介護指導者が配置できているおかげで認知症の実践者研修等の実習者を受け入れることで交流が出来ていると思います。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集を行い本人の要望に対応出来るように努めている。また、入居の際、入居前の生活歴や現在の不安を職員同士で共有しその方にあった支援をするように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	聞き取りによる実態調査を行い、家族の要望等に基づいた対応やケアを実施、不安解消につながるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じ、グループホームで出来る支援の中でどれが必要なのかを考慮して対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご家族様の愛情を引き継ぎ、家族と思いながら一緒に生活を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際にはご家族と一緒に時間を大切にして頂き、また、その中で職員も混じりながら、近況報告などを行うことで関係性の構築を図っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様のご家族、友人、知人などの面会がある際には気軽に訪問して頂けるよう環境作りを行っている。	親戚や馴染みの友人・知人の訪問の際には談話室で一緒にお茶を飲んだりしている。電話の取次ぎや理美容室使用の支援、年賀状のやり取りなども行って継続的な関係が途切れないよう支援している。家族の協力で外出や外食・墓参などの際にも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がコミュニケーション出来るように、レクリエーションやお手伝い等を通じて交流出来るよう職員は仲介に入りながら支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ訪問、面会を行なっている。また、ご家族からの電話連絡にも対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれ入居者様に合わせたスタイル空間を提供している。意向を把握出来ず困難な場合は、相手に必要な選択肢や表情、視線などで、何が必要かを判断し本人に選択、発言を求めるように支援している。	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。「畑に出て作業をしたい、ベランダの掃除をしたい」などの希望に対応している。困難な場合は、利用者の視点に立って職員で話し合い本人中心に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前は情報提供書などで生活歴や暮らし方の情報収集し、本人が混乱なく暮らして頂ける様に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定（朝、昼、夕）実施、些細な体調変化なども各職員と情報を共有し医師、訪看へ報告出来るよう心掛けている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにより、それぞれに合わせた最新のニーズでケアプランに反映出来るようしている。また、家族の視点から感じる変化等を聞き取り、ケアに反映出来るよう心掛けている。	本人や家族の意向を確認し、主治医の意見も取りいれ、担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎に実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昼夜の状況を看介記録に残し、日々の記録ページのにケアプランがすぐ見ることが出来るように綴っている。 連絡ノート等の活用もしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問での美容師を依頼し、ご本人の好みに合わせて、散髪や染髪を行っている。また月に1度朗読会や、音楽療法など行ってもらい回想などの支援を行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天候が暖かい日などは散歩など実施しているが、それ以外には取り組みに欠けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診は希望や医師の指示がある場合対応を行っている。入居以前からのかかりつけ病院の受診、往診などは出来る様になっている。受診、往診の対応は職員で行っており、可能であれば、ご家族の同行、同伴をお願いしている。毎日2～3回、理事長である医師に入居者様の身体状況を報告している。	受診は本人及び家族の希望で、ほとんど協力医療機関が主治医となっている。毎日夕刻、医師から電話があり、様子を報告している。週1回の往診や毎日、訪問看護師の健康観察もある。皮膚科や歯科は訪問診療で対応し、必要時に受診している。他科受診は家族の協力を得て支援している。緊急時の対応などには連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	身体状況に異変を感じた際には些細なことでも訪問看護師に伝達して診てもらうようしている。また、下田苑の看護師にも相談、助言を頂き関係作りを構築するよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入退院する際は病院と連携して情報の共有、提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期においては早い段階から法人内の特養に申込みをして頂き、環境の整う所でケアを行うようにしている。入所が決まるまでは一人ひとりに合ったケアを他職種と連携してケアを行っている。	重度化や終末期に向けた方針を重要事項説明書に明記し、同意書をもっている。早い段階から法人内の特別養護老人ホームに申し込んでいる。状況変化に伴い本人や家族の意向を随時確認し、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、勉強会や法人内の研修を通しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に二回防災訓練を行っている。内1回は消防の立会いで実施。水害訓練は現在実施出来ない。	消防署立会いのもと年1回、自主で年1回昼夜想定避難訓練を地震も想定し実施している。スプリンクラーや緊急通報装置も設置し、定期的に設備等の点検も行っている。民生委員や運営推進員も訓練に参加し、緊急連絡網に町内会長が登録している。災害時の水・米・災害用食料30日分の備蓄もある。懐中電灯・ラジオ・カセットコンロなども用意している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合った声掛けを行い対応している。また、相手の生活歴やプライドを傷つけないように支援している。	接遇マナーに沿って勉強会を行い、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないケアに取り組んでいる。居室に入るときにノックや名前の呼び方等については入所時に家族に聞き取ったりしている。入浴やトイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様に合わせて自己決定を促している。また相手がわからない時は相手が必要と思うことに選択肢を与えたりして自己決定を促すように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の一人ひとりにあったペースで一日一日を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時や行事等のとき、整容し衣服を整え、気持ち良い状態で入れるように支援している。女性の方で化粧をしたい時に女性職員にて化粧を行ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の空いた時間を伺いながら、食事の盛り付け等のお手伝いをしてもらっている。また食事の際には職員が入居者様と一緒に食事をするようにしている。	栄養士の助言を得て、菜園の野菜や旬の食材で嗜好に配慮し、個々に応じた食事形態を工夫している。食器洗いや後片付け、お盆拭きなど職員と一緒にしている。誕生日の祝い・季節の行事食・家族との外食など、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人一人の食事摂取量、水分量をチェックし、必要に応じて食事形態を刻み、荒刻み等を提供している。また、情報共有しながら、食事のムラや脱水予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。必要に応じて、仕上げ磨きや義歯磨きのケアを行っている。また、毎晩ポリデントにて義歯の洗浄、消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレの声掛けや誘導、介助を行っている。また一人一人に合わせて昼夜のパットを使い分けている。	排泄パターンを把握し、必要に応じて声かけ・誘導・見守りで、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。腹部マッサージや水分摂取量など便秘対策にも取り組んでいる。殆んどの利用者がトイレでの排泄ができています。夜間にポータブルトイレ使用者もいます。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に水分量1500ccを目標とし入居者様に飲んで頂いている。また、必要に応じて下剤服用を行い、看護師のもとで座薬を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を実施。入居者様の体調や当日の気分に合わせて入浴が出来るように支援している。	入浴は基本的には週2～3回午前・午後で、個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。脱衣所の温度管理にも配慮している。リフト浴も設置し入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む場合は声掛けや時間調整など、職員間の連携で状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて室温調整、リネン調整を行い、入居者様が安心して休んで頂くように支援している。またリビングにはソファが設置しており、そこで足を伸ばすなどの休息を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は各担当があり、それぞれの入居者一人ひとりに職員の担当がいるので、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存機能にあった役割を分担し、生活の一部として喜びを感じれるように支援している。また月に1度音楽リハビリを実施することで、昔の事を回想出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や入居者様の体調に応じて周辺の散策を行ったり、季節に応じてドライブに連れて行ったりしている。また、御家族様の希望があれば、本人と外出、外食なども行っている。	日常的には周辺の散歩やドライブに出かけている。年間計画を作成し、花見や農業都市センター見物・ドライブなどに出かけている。家族の協力で外出や外食・理美容院利用・墓参などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設自体は金銭の所持をお断りしているが、本人の希望または自己管理ができる方のみ所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人から希望があれば電話や手紙のやり取りが出来るように支援している。また、毎月ご家族様に写真を添えて手紙にて近況をお知らせしているので、その際に本人に書いて頂いたりもしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングにはテレビを配置し、テーブルを対面式にすることで、入居者様どうしがコミュニケーションをとれるようにしている。また、お手伝いをして頂いたりすることで、生活感を取り入れている。	共用の空間は、採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。5ヶ所あるトイレに男性用も2ヶ所設置し、利用者が使いやすい配置にしている。季節感を大事にした飾りつけを行い、談話コーナーに多くのソファを設置し、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットに談話室を設けており、日光浴や読書など楽しめるスペースにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が身近に使いなれた私物を持参して頂き、出来る限り自宅に近い雰囲気になるようご家族様と協力して居室作りを行っている。	居室は掃き出し窓で、エアコン・ベット・洗面台が備え付けである。寝具はリースである。テレビや冷蔵庫・ラジオ・机・椅子・毛布・ぬいぐるみ・写真など、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものを持ち込み、安心して過ごせるよう配慮している。畳の部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には段差はなく、手すりがあるので、入居者様の機能に応じて使用して頂いている。また、自立歩行者が多い為、障害物になるような無駄な物は置かないようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
		○	3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
		○	3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない